

達増 拓也 岩手県知事



皆様おはようございます。
大変元気に開会をしていただきましたが、東北横断自動車道釜石秋田線遠野道路 遠野住田IC～遠野ICまでついに開通の運びとなりました。心から御礼を申し上げ、そしてご挨拶を申し上げます。本日は多くのご来賓の皆様、そして関係の皆様にお集まりいただきまして、厚く御礼申し上げます。東北横断自動車道釜石秋田線は震災時の救援・救助活動を支える道路として有効に機能し、その重要性が再認識されました。本日開通する遠野道路は震災後に事業化され、復興のリーディングプロジェクトとして開通まで7年あまりというかつて無いスピードで整備を進めていただきました。これもひとえに先祖伝来の貴重な土地をご提供くださいました地権者の皆様を始め、地域住民の方々、そして関係の皆様の多くのご尽力ご支援の賜物でありまして心から御礼を申し上げます。

このたびの開通によりまして、釜石市から花巻市までの全線約80kmのうち約9割にあたる74kmが自動車専用道路で繋がります。東北横断自動車道釜石秋田線の順次開通により、内陸部においても企業の進出が増加し、新たな雇用が期待されるなど岩手県の復興を力強く後押ししていくものと確信いたします。また、来週3月9日には、いよいよ東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通という予定となっており、三陸沿岸道路にも結節し、本県沿岸と内陸が歴史上初めて高速交通体系で結ばれるという、まさに岩手の未来を切り開く道路になると期待いたします。

県では、国や市町村、関係者の皆様と一体となり、復興道路・復興支援道路の早期全線開通をはじめ、三陸復興創造に総力をあげて取り組んでまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びにこの地域のますますの発展とご臨席の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げまして挨拶といたします。

平成31年3月3日 岩手県知事 達増 拓也
本日は誠にありがとうございます。

本田 敏秋 遠野市長



おはようございます。ただいまご紹介いただきました本田でございます。
このような好天気の中で今日を迎えるということに感慨一入なものがあります。挨拶を申し上げます。
「東北横断自動車道釜石秋田線 遠野住田～遠野間」の開通にあたり一言ご挨拶を申し上げます。
東北横断自動車道釜石秋田線 釜石～花巻間は、国土交通省が東日本大震災からの復興に向けてリーディングプロジェクトとして事業を進めてきたところであり、かつてないスピードでの事業進捗によりまして、このたびの開通を迎えることとなりました。
これも国土交通省、岩手県をはじめ建設工事関係者そして、用地提供者皆様からの格別な御協力、御支援の賜物であり、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、このたびの開通により、「永遠の日本のふるさと遠野」も大きく変わります。

さて、このたびの開通により、「永遠の日本のふるさと遠野」も大きく変わります。

本日の開通と9日には、東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通が予定され、また既に国道340号の立丸峠のトンネル化が完成しており、遠野市の高速インフラが整備、拡充されます。

横軸の東北横断道と、これに接続する国道107号、国道340号などが結節する特性を活かした広域的な観光・物流、そして広域拠点のまちづくりへの更なる取組みにより、通過しない、させない魅力のあるまちづくりに邁進いたします。

工業集積が進む県央部と重要港湾を有する沿岸部が高速道路ネットワークで結ばれます。人と物の流れが大きく変わり地域の産業振興が新たなステージへと進むものと考えます。

本市への道路のもたらすストック効果として、県外企業の進出や工場新設、拡張などが計画されており、「新たななりわい」の創出による経済効果に大きく期待するところであります。

結びに、「災害に強い、復興道路関係ネットワークの実現」に向け、ご尽力いただきました多くの方々に敬意を表し、開通にあたっての挨拶といたします。

平成31年3月3日 遠野市長 本田 敏秋

挨拶ただいま申し上げました。皆様はこの開通にあたりましてご報告申し上げたい二つの事業があります。一つは遠野東工業団地がおかげさまで県の全面的な支援をいただきまして、知事の特認事項といたしまして、自治振興基金の財源手当てをいただきまして、県の土地開発公社が事業主体となりまして東工業団地がこの3月16日には多くの地権者の方々の了解をいただきまして、着工の運びとなりました。また、一方物流拠点といたしまして、誘致企業の一つが遠野に拠点を置き、釜石港を活用しながら、シンガポール、中近東の方に自動車用ゴム製品を輸出するというような拠点をここ遠野に設けるということが決定しているところであります。この道路をどう生かすのか、これから我々、沿線市町村がしっかりとタグを組み、連携と交流の中から沿岸と内陸、今日私はラグビーワールドカップのネクタイを締めてまいりました。釜石市長さんも締めております。そのような仲におきまして、連携と交流の中でこの道路がしっかりと活かせるように、また、活かして行かなければならないと改めて決意しているところでございますのでこの二つの事業へのご協力いただいたことも皆様にご報告申し上げ、挨拶といたします。
ありがとうございました。

高田 昌行 国土交通省 東北地方整備局長



ご紹介賜りました、東北地方整備局長 高田 昌行と申します。

東北横断自動車道 釜石秋田線遠野道路 遠野住田IC～遠野IC間の開通に当たり、主催者として一言ご挨拶申し上げます。本日来賓としてご臨席賜りました、鈴木先生、平野先生、木戸口先生には、東北横断自動車道 釜石秋田線をはじめとする、道路事業の推進にあたり、格段のご理解とご支援賜りまして厚く御礼申し上げます。また、達増知事、本山市長はじめ、関係機関の皆様、更には何よりも貴重な用地を提供いただきました地権者の皆様に深く感謝申し上げます。

遠野道路の開通により三陸沿岸地域と内陸部を結ぶ高速道路ネットワークが形成され、年間を通して円滑かつ安定的な交通が可能となり、地域の連携強化による交流の促進、産業経済の活性化を力強く、後押しするものと期待をしております。また、今年度から、花巻空港には台湾便など、国際定期便が就航しており、東北横断自動車道を利用した、沿岸地域との広域的な観光交流が期待されます。

国土交通省といたしましては、復興道路・復興支援道路について復興創生期間内2020年度までの全線開通を目指し、事業を加速してまいりますので引き続き関係の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「東北の復興なくして日本の再生なし。」

結びに当地域のますますのご発展と本日ご臨席の皆様の一層のご健勝ご多幸を心より祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

鈴木 俊一 参議院議員



皆様、おはようございます。ご紹介賜りました、鈴木 俊一でございます。本日遠野住田IC、遠野ICの遠野道路、待望久しかったこの良き日を迎えることが出来ました。本日のこの良き日を迎えるにあたりまして、この道路建設のためにご協力いただきました、国交省、復興庁、県、市、更には工事関係者の皆さん、さらに何よりも先祖伝来の土地をご提供くださいました地権者の皆様方、すべての関係皆様方に心より感謝を申し上げ、ともども心からお祝いを申し上げますとさせていただきます。

東日本大震災発災から、間もなく8年を迎えようとしているところでございます。今被災をされました各市町村、やはり被災の程度も違うことから進捗事情、ややまちまちのところもございしますが、全体として力強く、復興に進んでいるところであります。その中におきましても三陸沿岸道路、そして二つの復興支援道路、正に災害復旧・復興のリーディング事業として今これが正に完成の段階に差し掛かっているわけでございます。今回のこの遠野道路の開通によって岩手県では二つの港、ひとつは釜石、海の港であります。そして、もうひとつは花巻、空の港花巻空港、これらが結ばれることになってまいります。

今地方の活性化を図っていく中でももちろん基幹的な産業であります第一次産業、これをしっかりと前に進めなければなりませんけれども、このさまざまな産業の取組みが重要でありますし、ことにも観光業、インバウンド2020年には4000万人の外国からの方が日本を訪れるということがほぼ達成可能な段階になっているわけでございます。花巻空港と沿岸部が結ばれる花巻空港には知事さんのトップセールスもあって台湾との定期便も飛ぶことになるわけでございまして、まさに今後の観光の大きな支えの力となってこの道路が大いに力を発揮されることと思っております。

私も東日本大震災尊い多くの方々の犠牲の上にこうしたインフラ整備が進んで震災前とは生産基盤、道路基盤こういうものが充実してまいりました。これをしっかりと生かさなければ震災で犠牲になった方々に申し訳も立たないわけでございます。先ほど本山市長さんからもこの道路を核として新しい工業団地等々の事業を進められると、力強いお話を伺ったところでございます。この道路の整備を持ってまさに岩手県沿岸のみならず内陸ともども大いに発展をして前に進んでいきますことを心から祈念を申し上げ、重ねて関係皆様方の今日までの大変の努力に心より敬意を表しまして私のお祝いの挨拶にさせていただきますと存じます。

本日は誠にめでとうございました。

平野 達男 参議院議員



ご紹介いただきました参議院議員の平野 達男でございます。私から一言お祝いの言葉を申し上げさせていただきますと思います。まずもって、東北横断自動車道 釜石秋田線遠野道路が完成しましたこと、そしてまた完成式がこのように盛大に開催されましたこと、心からお祝い申し上げたいと思います。また、完成に向けてご尽力いただきました国土交通省、復興庁、県、そして遠野市をはじめとした地元自治体の皆様方、さらには工事関係者の皆様方のご尽力に心から敬意を表させていただきますと思います。さらには、先祖伝来の土地を提供いただきました地権者の皆様方にも合わせて私からも敬意と感謝の旨を述べさせていただきますと思います。

東日本大震災が発災して間もなく8年になるということでもありますけれど、あの災害が起こったときに仙人峠にトンネルが出来ていたというのがほんとに助かりました。そしてさらには、釜石と大槌間の一部、今で言う復興道路、当時の三陸沿岸道路だったんですが、その一部の区間が完成しているということが復興に大変大きな役割を果たしたと、あの様子を見てぜひ道路をつくらうではないかということで復興道路、復興支援道路の着工の運びになりましたことは皆様方にご案内しております。復興集中期間で何とか完成させようとして復興道路・復興支援道路は順次完成をして、来週には先ほどご紹介ありましたけれども釜石秋田線が開通する運びとなっております。この道路の完成によって先ほどからお話ありますように物流、人の流れも大きく大きく変わってまいります。特に北上地域、花巻地域では、ご案内のとおり東芝の3D半導体メモリの工場開設をはじめ、いろんな産業の集積が進んでおりまして、それが縦軸と横軸の中で物の流れが変わって動いていくということだと思っております。そういう中で今回のこの道路の開通は大変大きな意味をもつものと思っております。あと二年残っておりますけれどもその復興にも大きな弾みが出る、そういう道路の完成だと、そう思っております。最後になりますけれども復興道路開通に向けて今日ご参集の皆様方、さらに一丸となって取り組むことをご期待申し上げますとともにこの道路の開通を祈念に、この沿線地域がますます発展することを心からご期待申し上げますとさせていただきます。

本日はおめでとうございました。

木戸口 英司 参議院議員



今日のこのすばらしい天候、まさに今日のこの開通式をすべてが喜びそして祝福しているような感じがいたします。今日の遠野道路の開通式、誠にめでとうございます。そして3月11日が8回目として近づいてまいりました。その直前になって、こうして遠野道路、そして釜石道が全線開通すること本当に喜ばしく、関係者の皆様方に心から敬意と感謝を表し、そして地域のすべての皆様方に心からお祝い申し上げたいとそのように思います。

振り替えばこの内陸とそして、鉄の町海の町釜石、そしてその間にある遠野を結ぶことはこの岩手県にとって大きな大きな課題でありました。大正時代、民間の力で岩手軽便鉄道それが開通をいたしました。しかし、この仙人峠をどうしても敷設することができず、その間も徒歩で釜石まで抜けていたということを私たちは記憶しております。仙人峠を徒歩で越えるには大人の足で約3時間かかったと言われております。1950年になって国鉄釜石線が釜石まで全線開通し、そして1954年になって、仙人トンネルが開通をし、やっとでこの内陸と釜石を結ぶことが出来た、そしてまた、2007年になって新しい仙人トンネルが通り、約30年近くこの釜石への道路の計画が長く長く続いてきたわけですけれども、大きな震災の被害を受けてみんなで努力しながらこの開通式を今日迎えることが出来た、本当に感慨深く、また、この岩手にとって、この地域にとって大きな大きな歴史的な日を迎えることとなったと思います。

先ほどからお話のありますとおり三陸沿岸道が開通していけば県北、そして青森、そして県南から仙台、東京へ、そして花巻から花巻空港、そして上海、台湾、東アジア、世界へと広がっていく。そして釜石港からもまた世界へと広がっていく。大きく拓かれたこの岩手釜石遠野地域が今後期待されるところであります。ぜひこの震災を乗り越えて、皆様とともに、全国世界へ拓かれた岩手を創っていく、今日その決意をする日にまたしていければと思っております。

私この高速道路の開通式何回も足を運ばせていただいておりますが、その都度思い出す歌がございます。「この道はまるで滑走路 夜空へ続く」というPOPSの歌がございます。この夜空が豊かな未来と置き換えてもいいのではないかと思います。また、夜空を考えるとときにこの地で地域づくりに一生命動しみながら亡くなっていった多くの先人の皆さん、そして被災で亡くなられた多くの皆さんのその魂、それと繋がること、この遠野物語の地で、また銀河鉄道のモデルとなった軽便鉄道が通ったこの地で深く深くそんな思いに駆られるところであります。ぜひ多くの地域の皆さんと、そして多くの先人の皆さんと、また心を合わせ、力を合わせ、この地が大きく未来の希望に向かっていくことを誓い合いながら、お祝いの挨拶とさせていただきます。

おめでとうございます。

【地域の声】三浦 芳昌 遠野市観光協会 会長



本日はお寒い中またご多忙の中、多くの御来賓をはじめ関係者の方々の御臨席を賜りここに「東北横断自動車道釜石秋田線（遠野住田～遠野間）」の開通に際し地域を代表し一言ご挨拶いたします。

私は一般社団法人遠野市観光協会会長を務めております、三浦芳昌と申します。

さて今から8年前の3月11日午後14時46分、すべてはここから始まりました。東北地方を中心に発生した「東日本大震災」1分以上、いや3分近い大揺れから30分後には大津波が来襲、沿岸各地を中心に未曾有の大被害、町は傷つき、多くの死者、行方不明者を出し、そこに住む一人一人の生活が一瞬に悪夢と変わってしまいました。

この震災で私たちは「励まし合う事」、「助けあう事」、「心をつなげる事」を学びました。当たり前のように使っていた水や電気、燃料、毎日口にしていた食べ物のありがたみを肌で感じました。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。私自身忙しさにかまけ、震災をふと忘れる事があります。しかし時より地震が起きると「はっ」と我に返ります。これは犠牲になった人々が「自分たちを忘れるな」、「震災を忘れるな」と警笛を鳴らしてくれているのだと感じることがあります。

この道は単に沿岸と内陸を結ぶだけではない、「人と人」、「心と心」、「命と命」を繋ぐ道です。暑い日も寒い日も辛い作業を毎日、毎日1cm、1m、1kmとこの大きなプロジェクトの作業に携わった多くの皆様の想いのこもった道です。

遠野市は、震災当時後方基地として、本田市長のリーダーシップの下、市民一丸となって復興支援の一躍を担ってまいりました。今後もいつまた起きるかもしれない災害に備えるのは勿論、これからはインバウンドを中心とした観光交流、産業振興の発展の推進に隣の住田町、そして釜石市を中心とした沿岸地区、また花巻市や奥州市など内陸の拠点都市と一致協力しながら遠野としての役割をこの道を通し、果たしていきたいと思っております。

私はこのふるさと岩手遠野に住む人間として、またハンドルを握る一人のドライバーとして、安心安全に心がけこの道を利用します。何よりも1件の事故も起こすことのない「永遠の日本のふるさと遠野」の主要道路である事に誇りと責任を持ち地域の皆様とこの道を大切にまいります。

結びに、まもなく平成も終わり新元号の元、日本の新たな時代、歴史がスタートします。しかし、いくら時代や歴史が変わろうとも私たちは忘れません、絶対に忘れません。この道が多くの人々の犠牲と努力のおかげで開通したことを一生後世へ語り伝え続けることをここに誓い、これまでの国や県を始め関係各位のご尽力に心から感謝申し上げ「地域の言葉」といたします。

本日は誠にありがとうございました。